

令和7年度小幡北小学校努力点

I 研究主題

「主体的に学び続ける子の育成」～自分で選んでやってみよう～

2 主題設定について

(1) 主題設定の理由

新学習指導要領に示されている育成すべき資質・能力の3つの柱の中に、「学びに向かう力、人間性」がある。これは、教師から与えられるものに対して受動的に学ぶのではなく、自ら課題を見付け、それに対する解決方法を考えて実行していくような、主体的に学ぶ力を育成することが求められているからだ考える。また、ナゴヤ学びのコンパスでは、目指したい子どもの姿として、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」ことを示している。さらに、目指す子どもの姿は、本校学校教育目標である「自律 尊重」においても一端を担うものである。

以上のことから、子ども一人一人が自律して学びを進めることができるように、「主体的に学び続ける子の育成」という主題を掲げ、実践を進めることにした。ここでいう「主体的に学び続ける子」とは、子ども自らが“学び方”のよさを理解し、自分で“学び方”を選択し、学びを進めていく子とする。

(2) 実践の経過

令和5年度は、1年目として、主体的に学び続ける子を育成するために、到達度目標と学び方を子どもに選択させる実践を行った。実践を行う中で、子どもたちが自ら到達度目標や”学び方”を選び、学びを進めている姿が見られ、一定の成果を得た。しかし、子どもたちに到達度目標や”学び方”を選択させる上で、「どの到達度目標にしたらいいか判断できない」子やそれぞれの学び方のよさを理解していないからか、「いつも同じ学び方を選択する」子が見られた。

そこで、令和6年度は、それぞれの学年部（発達段階）に応じた目指す子ども像を設定し、系統的な手立てを講じることで、今年度の課題を解決したいと考え、実践を進めた。

【表1 各学年部の目指す子ども像】

学年	各学年部の目指す子ども像
低学年	様々な学び方のよさを知り、学びを進められる子
中学年	“適切な”学び方を自分で選択し、学びを進められる子
高学年	主体的に学び続ける子

実践を進める中で、自己選択して学習を進める子どもたちの姿が多く見られ、成果をあげることができた。令和7年度は、学校関係者評価委員会でご指導いただいたことを受け、算数科に限定せず、様々な教科で実践を重ねていくことで、主題に迫りたいと考える。

3 研究の内容

(1) 手立ての具体化（令和 6 年度より変更なし）

【表 2 各学年部の手立て（例）】

学年部	手立ての例
低学年	“なかまなビジョン”を意識して授業展開を行い、“学び方”について振り返る活動を取り入れることで、様々な“学び方”のよさを知ることができるようにする。
中学年	1 時間の授業の中で、学び方を選択させる場面を設定し、“学び方”について振り返る活動を取り入れることで、“適切な学び方”を自分で選択し、学びを進められるができるようにする。
高学年	1 時間の授業や小单元において、“学び方”や進度を自分で選択できるようにすることで、主体的に学び続けることができるようにする。また、発展的に考える視点を与えることで「学びの個性化」を促していきたい。

各学年の目指す子ども像に迫る上で、上記のような手立てで実践を行う。

(2) 実践の方法（下線部は、令和 6 年度からの変更点）

- ・ 低学年部会・中学年部会・高学年部会の 3 部会を設置し、推進にあたる。
- ・ 前期実践は 1 学期中、後期実践は 2 学期中に行い、各学級、年間 1 実践を授業公開する（1 年生は 2 学期実践を公開としてもよい）。
- ・ 各部会内で前期・後期に分かれて行い、同時期にたくさんの学級が公開授業を行うことにならないよう計画的に実践する。（別紙により、年間計画を作成する）
- ・ 特別支援学級の公開授業は、前後期いつでもよい。
- ・ 各部会で授業公開前に事前検討会を行い、ねらいや手立てについて共通理解を図る。授業後は事後検討会を行い、手立てや指導計画が授業のねらいや育てたい子ども像に迫るのに有効だったかを検証し、課題を共有する。（PDCA サイクル）
- ・ 授業公開を行う際には、本時で使用する資料や学習プリント等を添付する。観察児童を設ける場合、写真等の記録を残す場合は、各部会で事前に決めて行う。
- ・ 指導案（様式は授業づくりハンドブック参照）は、事前検討会ののち、校長、教頭、主幹教諭、教務主任、校務主任、推進委員長、所属部会へ、授業 3 日前までに印刷して配る。データは指定されたフォルダ（「share→教務部→努力点推進フォルダ」）へ保存し、部会以外の先生が参観する際に各自で印刷できるようにする。
- ・ 実践日は、2 週間以上前に主幹教諭を通して決め、日程を教務主任に報告する。
- ・ 各学級の授業公開日程は決まり次第、主幹教諭、教務主任が周知する。
- ・ 実践授業後に、事後検討会（各部会メンバー＋教務）を行う。

(3) 実践の検証方法について

実践前と実践後において、以下の項目についてアンケートを実施する。

○ 学校評価項目

低 「それぞれの学び方（１人で学ぶ・ペアで学ぶ・自分が選んだ人と学ぶ・グループで学ぶ・みんなで学ぶ）のよさを知っている」

4 はい 3 どちらかといえば はい 2 どちらかといえば いいえ 1 いいえ

中 「自分にあった学び方や課題に応じた学び方を考えて、学びを進めている」

4 はい 3 どちらかといえば はい 2 どちらかといえば いいえ 1 いいえ

高 「自律して、学びを進めることができた」

※ 「自律して学びを進めることができる」とは、学び方や時間の使い方を子どもが選んで、学びを進めていることを言う。

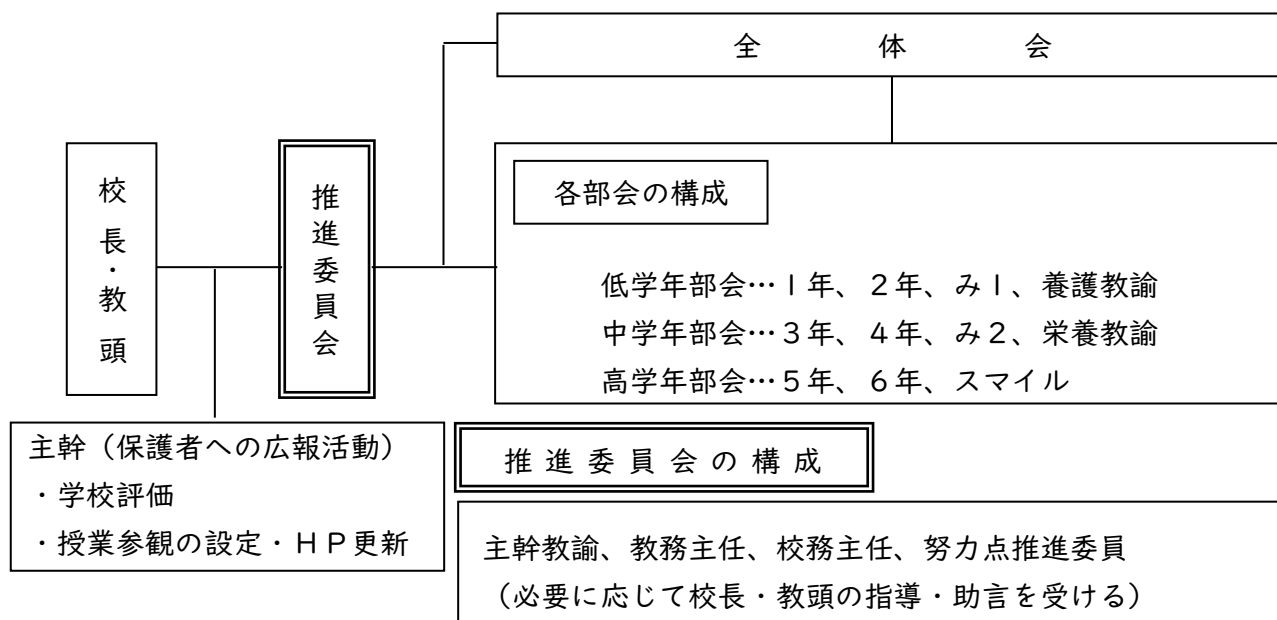
4 はい 3 どちらかといえば はい 2 どちらかといえば いいえ 1 いいえ

特 「 」

4 はい 3 どちらかといえば はい 2 どちらかといえば いいえ 1 いいえ

4 推進計画

(1) 組織図



(2) 令和7年度 年間計画

	全体会・職員会議	推進委員会	部会
1 学期	4月17日 本年度計画案 提案 5月12日 本年度計画案 伝達	7月14日 ・1学期の振り返り ・2学期に向けて	4月・子どもの実態把握 ・実践計画の検討 (公開授業の予定を決定) 5月 前期授業実践開始 7月 前期実践のまとめ
2 学期	9月29日 中間報告会 ・前期実践の成果と課題 ・後期実践に向けて	9月2日 中間報告会に向けて 前期実践の成果と課題 後期実践に向けて 10月20日 全体授業の検討 12月18日 2学期の振り返り	9月 後期実践の検討・実践開始 ～ 12月 後期実践のまとめ
3 学期	2月12日 最終報告会	2月9日 次年度推進計画の検討	2・3月 本年度実践のまとめ 次年度推進計画の検討

(3) 努力点全体授業について

12月17日(木)5時限目に全体授業を行い、授業後、事後検討会を行う。

(4) 情報の発信について

- ① ~~12月14日(土)4時限目において、全学級、保護者向けに努力点授業を行う。~~
~~事前に学校だよりで、参観日の学習予定を保護者に知らせる。~~
令和7年度は、学習発表会のため行わず。
- ② 2学期末に、全保護者を対象にアンケートを実施し(学校評価)、結果を集計する。
結果は学校だよりやホームページを通して、保護者に発信する。

5 報告会について

- ① 中間報告会(9/29)
前期実践で取り組んだ授業の成果と失敗談について報告する。各実践者3分程度のスライド3枚以内(写真なし)の発表とする。
- ② 最終報告会(2/12)
1年間の実践の成果と課題を報告する。
特に、成果が見えるように留意すること。
各学年3分程度のスライドによる発表とする。(紙面等はなし)